

まらで見られる虫たち

市街地の生きもの 広瀬重夫

双翅目（そうしもく）のなかま



ハエ、カ、アブ、ガガンボなどのなかまは、前ばねだけで飛び、後ろのはね一対は退化して、ごく小さな平均棍（へいきんこん）として残り、飛ぶときの体のバランスをとる役目をします。

成長は完全変態で、口はなめたり刺したりするのに都合のよい形になっています。

このなかまは昆虫全体の１０％ほどをしめ、世界に６０，０００種ほどが知られています。



写真１５４、ヒメヒラタアブ（上）、とホソヒラタアブ（下）
１０月、神仙寺通２

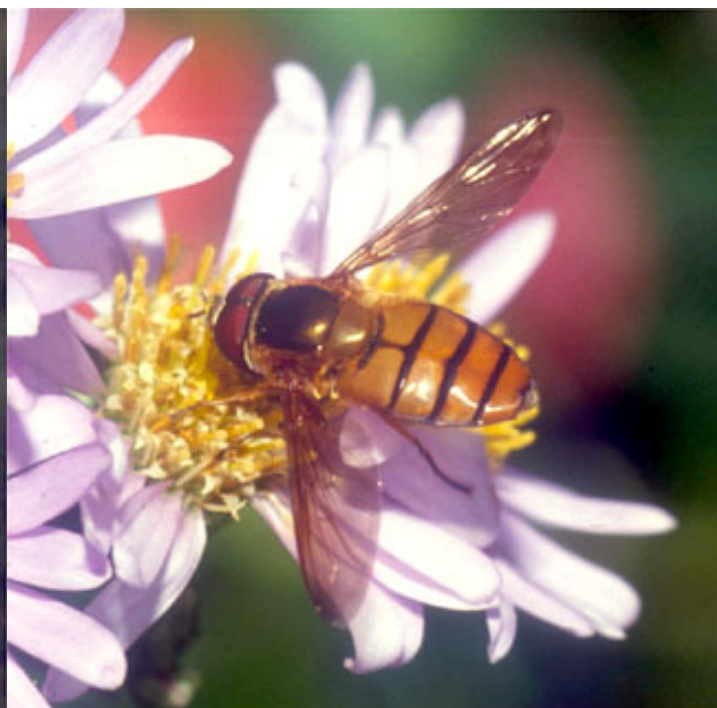


写真１５５、ナガヒラタアブ
９月、自宅

■ ヒメヒラタアブ と ホソヒラタアブ

セイヨウタンポポの花に、ちょうど２種類の小型のアブが来ていました（写真１５４）。体の太さと、背のしま模様などは違いがはっきりしますが、体長はいずれも１cmほどです。

■ ナガヒラタアブ

庭のシオン（キク科）の花に来ていたヒラタアブの一種、体長は１．５cmと中型のアブです（写真１５５）。

すぐ近くにコアオハナムグリもやってきて、花粉を食べています。



写真 1 5 6、ハナアブ
9 月、自宅



写真 1 5 7、シオヤアブ
7 月、自宅

■ ハナアブ

シオンの花にはいろんな昆虫がやってきます。これは、ハナアブ科の代表的なハナアブ（ハナアブバエ）です（写真 1 5 6）。

だいたい色の腹部の背側にある「エ」の字型の黒い紋がシンボルマークです。

成虫はよく花にやってきますが、幼虫は長い呼吸管を持ち、汚れた水の中で生活します。

■ シオヤアブ

体は 2 . 5 cm 前後と大きく、つめを持った頑丈な脚をそなえ、ほかの昆虫を狩る肉食性のアブです（写真 1 5 7）。

腹端に白い毛を束ねた左下のが雄です。



写真158、アオメアブ
7月、六甲アイランド



写真159、ベッコウガガンボ
5月、新神戸駅

■ アオメアブ

体が3 cmにも達する大型のアブで、足にとげを立て、体つきからして見るからに精悍（せいかん）なやつです（写真158）。セミを捕らえるくらいワケはなさそう。

■ ベッコウガガンボ

体のほとどの部分も、黄褐色と黒のまだらになっています（写真159）。

触角をよく見てください。見事なくし歯状で雄のシンボルです。雌のはか細い糸状です。足はとても細くて長いので、採取したり標本にするときには、細心の注意がいります。

[このページのPDFファイル](#)



[トップページへもどる](#)